

「コロナ禍の中で」

吉野輝雄

2020年3月にWHOから新型コロナウイルスのパンデミックが宣言され、今も世界各国の感染拡大が終息してない。日本では、桜満開の4月頃に緊急事態宣言が出され、不要不急の外出自粛が要請された。それ以降の事態と社会生活への影響が国中の人々の日常を変えた。私は、10年前に定年退職していたので、外面的には大きな影響を受けなかったが、それでも毎日曜日に出かけていた教会での集会在2ヶ月間近く休みとなり、礼拝、会議がリモートとなった。当たり前のことが中断され、見えない壁で行動が塞がれた。国内外のコロナ情報と毎日向き合う中で、感染への恐れだけでなく社会生活、心理、人間観にまで影響が及んでいる事が、私だけでなく、おつき合いしている知人も同じであることが分かった。幸運なことに私も知人も、現時点で感染を免れているが、非常時特有の不安定な気持ちが消えないままの状態にある。

このような中で、終息の見込みのないコロナ禍に立ち向かうために小さな行動を始めた。それは、趣味の写真撮影を活かして近隣の自然の変化を写真に収め、ネット配信、あるいは印刷して共有することである。感染を恐れ萎縮しがちな人の心を開き、自然界の命の営みの中にヒトも生かされている事実気づけば、いくらか心が安らぐのではないかと考えたのである。

写真アルバムとエッセイ「近隣の自然の変化に目を向ける」



共有の相手は？まず近隣の芦花公園で10年近く毎朝続けているラジオ体操＋渡辺体操の仲間。多くの年配者が、体と心の健康を保つために集まり、公園内を散歩しながら他愛ない会話を楽しんでいる。コロナ感染に対する免疫力をつくはずだとみな笑っている。都立芦花公園内には種々の草木が植えられており、花の丘にはボランティアによって四季の花が手入れされている。また、また、近隣の庭先に草花を育てている人々が多いので、被写体探しには苦労しない。撮影した四季の変化を写真アルバムにエッセイを付記し、4月以来で27号印刷・メール配信し、ホームページにもアップロードしている。バックナンバー：<http://sengawacx.com>

受け手の反応は？予想以上に好評で、「癒やされています」、「楽しみにしています」「身近にこんなにたくさんの花が咲いているのに気づかずに過ごしていたとは」「知らなかった花の名前が分かり嬉しかった」「近くの公園で珍しい花が見られて幸せですね」（確かに、高遠小彼岸桜、ハンカチの花、カタルパ、マヤラン、姥百合などは芦花公園の宝と言える）。コロナ危機の中で、不安・イライラ・閉じこもりがちな心に癒しを与えていることが伺え、趣味の写真撮影が役立っている事が嬉しく思っている。

エピソード：体操仲間の婦人の一人は写真アルバムを心待ちにしておられ、手作りの果実のジャムを下さるので、今年はジャムを買ったことがない。その方は老人ホームで働い

ていて、写真アルバムを必ず見せている。すると、待ってましたとばかり、賑やかに話が弾むと言う。コロナ禍で外出できないためでもあるらしい。この話を初めて聞いた時、私は心が震えた。そして、手抜きをせず、季節が一巡する来年3月まで続けようと心に決めた。

制作の意味：写真アルバムは、花だけでなく、食用・非食用の木の実（ベリー）、公園内のきのこ、昆虫（特に、夏に羽化の様子を見ることが出来る蝉の生態）、四季の雲を特集することもある。自然は多様な動物・植物が相互に関係をもち、何かを与え依存しながらダイナミックに変化しているからである。その中にヒトも生きている。

花や昆虫の名前：和名だけでなく英語名（あるいは学名）をつけることにしている。理由は、外国の友人にも配信しているからである。とは言え、名前が分からないことが度々。そこで頼りにしているのがネット検索とスマホ無償アプリ(Plant snap)。段々検索のコツが分かってきたが、変種・園芸種には今も悩まされている。

最近制作し、「私も探したい」と反応が多かったのが「秋の七草」(No.27)。実例としてここに転載する。

「自然広場から： 近隣の自然の変化に目を向ける No.27 秋の七草 Seven autumnal flowers」

2020年9月28日

秋の七草をすぐに言えますか？恥ずかしながら、私は言えませんでした。ネットで調べたところ、万葉集で山上憶良が詠んだ和歌に由来することが分かった。

山上憶良(万葉集)

「秋の野に 咲きたる花を 指折り かき数ふれば 七種の花」

「萩の花 尾花 葛花 撫子の花 女郎花 また藤袴 朝貌の花」

そこで、この7つの花を近隣で探してみようと思い立ち、今まで以上に目を凝らして歩き回った。**アルバムの中の円内は、変種(西洋種、園芸種を含む)**である。萩の変種は古来より知られていたものだ。**パンパスグラス＝シロガネヨシ**は、背丈が大きく堂々としていて**尾花＝ススキ (芒)**と同時期に見られる(変種ではない)。葛(**クズ**)は、最近ほとんど刈り取られ、花を見つけるのに少々苦労した。**撫子(ナデシコ)**と**藤袴(フジバカマ)**はすぐには見つからなかったのだが、幸いなことに昨日(9/27)、七草すべてに出会い、写真に収めることができた。「求めよ、さらば与えられる。捜せ、そうすれば見つかる」(聖書)を思い出した。

ナデシコの正式名はカワラナデシコ。女子プロサッカーチームのニックネーム「ナデシコジャパン」は大和撫子(清楚で美しい日本女性)に由来する。ネット情報によると、**西洋には300種ものナデシコが存在する**という。平たい植木鉢に植えて玄関先に置かれた4株(**円内の写真**)はどれも**西洋種**であった。それでも芦花公園近くの家の庭先で出会えた時は嬉しかった。

実は、**カワラナデシコ**と**フジバカマ**と**桔梗(キキョウ、万葉の時代には朝貌/アサガオと呼ばれていた)**は数日前に仙川駅近くの家の垣根の外で撮影したもの。家主は秋の七草を揃えて植えられたに違いない。他の4種はなかったが、家主の奥ゆかしさが表れているようで、頭を下げた。なお、**八重とピンクのキキョウは園芸種**で、芦花恒春園内に植えられていた。不思議な出会いをたくさん経験した秋の七草探しであった。

写真アルバム(元画像)は

http://sengawacx.com/LookNatureNo27_2020.jpg